



並行在来線については方針書にもあるが、三市連絡会は、地域で各会派

みんなの意見

第63回地本定期大会が10月16日開催され、13名の代議員から発言がありました。今号は、代議員の発言を特集します。

代議員十三名から発言



NO. 709
発行
10・11月1日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
関川 和彦
編集責任者
教 宣 部

書記長集約

第一に、1047名JR不採用問題の最終解決に向けての闘いについて～最終局面を迎えたJR不採用問題は、今後は政府からJR各社へ要請が寄せられることにより残された課題である雇用の確保が実現することになり解決の最終局面を迎えることになります。雇用の確保をめぐる闘いは、政府とJR会社等との課題と位置付け、本部・東日本本部との連携を密にし、地方でできる取り組みに集中していくこととします。

第二に、労働条件改善、権利確立と「安全・安定」輸送確立の闘いについて～新潟支社は、9月にダイヤ改正に伴う乗務員行路の見直し、設備部門におけるメンテナンス体制の改善、平成22年度冬期の取り組みについて、矢継ぎ早に提案をしてきています。そして、年度末事案の概要の中には、運輸部門におけるグループ会社と一体となった業務体制の更なる推進もあり、実際に提案できるかは別にして、全系統にわたる「外注ありき」の施策を推し進めています。

貨物会社においても、赤字解消のため大幅な要員削減により業務に支障がでるなど、大きな問題となっています。改めて働きやすい職場、労働条件改善に向けた「仕事・安全総点検運動」の強化が求められており、運動を職場に定着させる取り組みを強めていくこととします。

第三に、組織強化・拡大の闘いについて～今年度、東日本本部主催のブロック別組織対策交流会が開催され新潟から10名の組合員が参加し、学習と交流を深めました。分会の取り組みになり切れていない実態、取り組みの担い手である分会が機能を発揮するに至っていない現状が数多く報告されています。他の地方本部での拡大経験を生かすとともに、職場の国労運動の根源である「仕事・安全総点検」「職場総点検」の取り組み強化を図り、職場において全ての仲間から信頼と共感を得る取り組みを具体的に進めていくことが求められています。

組合員一人ひとりが自分自身の拡大への障害を克服するために何が必要かを考え、粘り強く取り組みを継続していかなければなりません。

国鉄闘争の最大の山場であるJR不採用問題が最終局面を迎える今日、職場からの安全・安定輸送にかかわる諸問題の改善、安心して働き続けられる職場環境づくりに向けた闘いと結合して、全ての取り組みを組織拡大へと集約し、山積する諸課題に奮闘することを申し上げて集約とします。



と連携して運動を進めている。国への見直し、JRへの要請を展開、整備新幹線の基本方針並行在来線に対するJR支援を要請した。この方針に対して

長野、富山は指示している。並行在来線はJR、地方が協力して運営、JR経営参画を強く求めている。泉田県知事は共同歩調を取ってない。今後、いろいろな問題を抱えながら在来線、地方線の存続について運動を強めていく。今後、地本からの支援をお願いしたい。新幹線業に伴って特急のダイヤがとつたのか、地域だけの問題でなくなるので地本全体



の課題として進めていく。嘱託社員の労働条件について60歳以上の労働条件は厳しい状況にある。現場の要求、要望を支店と話し合いを数回行っているが改善されていない。外注会社では月間法定労働時間オー

バーが発生している。超勤手当よりモ休みを増やして欲しいと訴えている。今後、地本の支援をお願いしたい。貨物会社社員が東日本会社、出向しているが55歳以降になると出向解除となる、そのことにより貨物職場



は要員が増えることとなる。出向者全員で議論して欲しい組合としてやっていくのが。労働協約を結ばないきた理由は？基本的に労働協約を結ぶことは反対だ。最終解決に向けた取り組みは政治的取り組みとしているが6名が雇用の問題で訴訟を起した。そのため支援することを分会で確認した。政治解決は解雇撤回を消したものの、雇用できなくてもしょうがないと妥協させる内容だ。

職場では一度点呼が大きな問題になっている。駅での起床遅延が発生し休憩終了前に確認させている。申し入れを行ったら再検討となった。
 検修外注化について現場では早成採が反対している。国労は反対しているのか？国労は他労組とも共同行動を強めていくこと。



酒田地区についても国鉄闘争の報告集会の開催を取り組みたい。労働協約について、なぜ結ぶのか説明を。就業規則より内容が上に労働協約があると考ええる。
 冬季の投排雪列車について、排雪列車を先行させて、列車の運行を要請。設備メンテナンス、12月1日から羽越線など同じ線区を二つに分ける業務体制として管理していく状況だ。担当は半分だが業務内容が増える。

労働協約、この問題が出てくるのは結ぶことが前提だと思われる。現場では労働条件の厳しい環境にある。討論は期日を決めないで行って欲しい。検修外注化について、現状は具体的にどうなっていくのか。



心の病、現場で発生している。国労として機敏に対応して欲しい。正しい情報が伝わるようにお願いしたい。対象者に対して人間関係で職場が厳しくならないようにした。

労働協約は結んでメリットがあるのか。結んでこなかったから、そう考える。なぜ、この問題が出てきたのか。どうメリットがあるのか現場

山脈集推薦作品

池 森子 選

時をまるめて無人の駅を通過する	辻 敬子	一歩引く椅子は他人の距離におく	佐藤 康
夕陽赫々と命を問うてくる	田中 寿々夢	棒麩を風に晒すも人の死も	笠原 高二
ろうそくを吹き消しこころ仕分けする	太田 虚舟	人生の節目にしかと返し針	太田 健次郎
風の声つかむと秋の絵が揺れる	高橋 鬼焼	自画像が上手に書いて眠くなる	高橋 朗風
ゆく船のわびしさ刈田になってゆく	野村 稲波	自分をも騙した夜の不眠症	関 弦月
愛一途生きる寒さをくつがえす	秋田 あかり	生きてます残高表に温められ	熊谷 岳郎
飛んできた石は磨いて投げ返す	太田 健次郎	アゲインは無し痛にメールを打ってやる	川西 香月
幸福な風はひとりでラッパを吹く	梶野 正二	終章で金の成る木が枯れはじめ	西川 洋々
ひとすじの炎は君に向けている	三村 悦子	冷静になって悔いてる終列車	浦井 隆
逆転の発想夕日版方する	正司 珠梨	05の黒煙は無敵ではないぞ	日中 道博

文芸特集



の組合員に示して欲しい。
 検修外注化について、話しが聞こえてくるが具体的にどうなのか。国労は外注化に対して取り組んでいるのか。国労組合員の年齢が高齢化になっているから、すぐに出向するからと思っているからなのか。他労組の動きが活発に見える。

一括和解以降、現場は何も変わっていない。国労に対して差別がある。それはJR発足以来変わっていない。2等級の施設係が職場にいる。他労組は、すぐに合格する。この状況について真剣に取り組んで欲しい。施設は外注化が進んでいるが、JRはどこまで列車の運行に責任をもてるのか。全体で議論する必要がある。
 大雪での雪害について、緊急に要求を2月に出したが交渉は7月で情報化が8月だった。何のための緊急だったのか。早く取り組んで欲しい。

全国大会やエリア大会の報告をお願いしたい。情報化の前に集会や代表者会議で地本からで報告して欲しい。
 職場の課題について10月30日に支部大会を開催する。



県支部が発足し、各分会の悩みを検討し、できることからやっていく。
 労働死亡災害が多発している。鉄路の状況も悪化している。協力会社も含めて現場は混乱している。設備メンテナンス、12月提案に対しての解明要求を作成、支社団交を計画している。納得のいく闘いを取り組んでいく。

昇進・昇格試験、2等級社員に対して受験要請をしているが受験しない。どうやって取り組んでいくのか。



編集後記

急に気温が下がり身体はビックリしています。今年もあと2ヶ月余りですね。一年は早いです。年末にかけて忙しくなりますが、身体に気をつけてください。今年の冬は寒くなりそうだと予報では伝えていきます。
 12月は忘年会のシーズンになりますね。仲間と酒を酌み交わし、楽しく呑みましょう。

次号は、運転協交流会を予定しています。